

ボランティア活動に必要なだと思う条件では、「時間にしぼりがなく、いつでも参加できる」が最も高く、54.9%となっている。次いで「しみんだよりやホームページで活動を紹介・PRする(47.2%)」「活動のために必要な知識や技術を習得する機会(講習会等)がある(37.8%)」の順となっている。(図 4-6)

表 4-6-1 (年齢別 ボランティア活動に必要なと思う条件 複数回答)【単位：%】

	20～29歳 (n=161)	30～39歳 (n=289)	40～49歳 (n=267)	50～59歳 (n=367)	60～69歳 (n=380)	70歳以上 (n=360)
1位	時間にしぼりがなく、 いつでも参加できる 58.4	時間にしぼりがなく、 いつでも参加できる 55.7	時間にしぼりがなく、 いつでも参加できる 64.4	時間にしぼりがなく、 いつでも参加できる 62.4	時間にしぼりがなく、 いつでも参加できる 53.4	しみんだよりやホームページで活動を紹介・PRする 40.8
2位	どんなボランティア活動があるかホームページで検索できる 49.7	しみんだよりやホームページで活動を紹介・PRする 55.4	しみんだよりやホームページで活動を紹介・PRする 46.1	しみんだよりやホームページで活動を紹介・PRする 52.0	しみんだよりやホームページで活動を紹介・PRする 45.0	時間にしぼりがなく、 いつでも参加できる 39.7
3位	しみんだよりやホームページで活動を紹介・PRする 46.0	どんなボランティア活動があるかホームページで検索できる 43.6	どんなボランティア活動があるかホームページで検索できる 41.9	活動のために必要な知識や技術を習得する機会(講習会等)がある 43.6	活動のために必要な知識や技術を習得する機会(講習会等)がある 38.4	活動のために必要な知識や技術を習得する機会(講習会等)がある 27.8
4位	助言や指導を行うリーダーがいる 41.0	活動のために必要な知識や技術を習得する機会(講習会等)がある 41.5	活動のために必要な知識や技術を習得する機会(講習会等)がある 40.4	どんなボランティア活動があるかホームページで検索できる 36.8	どんなボランティア活動があるかホームページで検索できる 27.6	助言や指導を行うリーダーがいる 23.1
5位	活動のために必要な知識や技術を習得する機会(講習会等)がある 35.4	助言や指導を行うリーダーがいる 31.5	助言や指導を行うリーダーがいる 37.1	助言や指導を行うリーダーがいる 31.9	助言や指導を行うリーダーがいる 25.3	ボランティア同士の交流の場がある 21.4

年齢別にみると、ほとんどの年代で「時間にしぼりがなく、いつでも参加できる」が最も多く、特に40～49歳と50～59歳では6割を超えているが、70歳以上では「しみんだよりやホームページで活動を紹介・PRする」が40.8%で最も多くなっている。

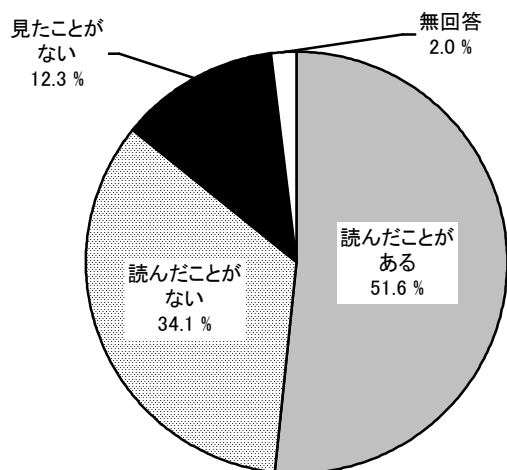
また、「どんなボランティア活動があるかホームページで検索できる」は、20～29歳では2位(49.7%)と多くなっているが、年齢が上がるにつれてその割合が低くなっている。また、70歳以上では「ボランティア同士の交流の場がある(21.4%)」が5位以内に入ってきている。(表 4-6-1)

## 5. 人権啓発について

### 5-1 人権啓発記事「虹のひろば」について

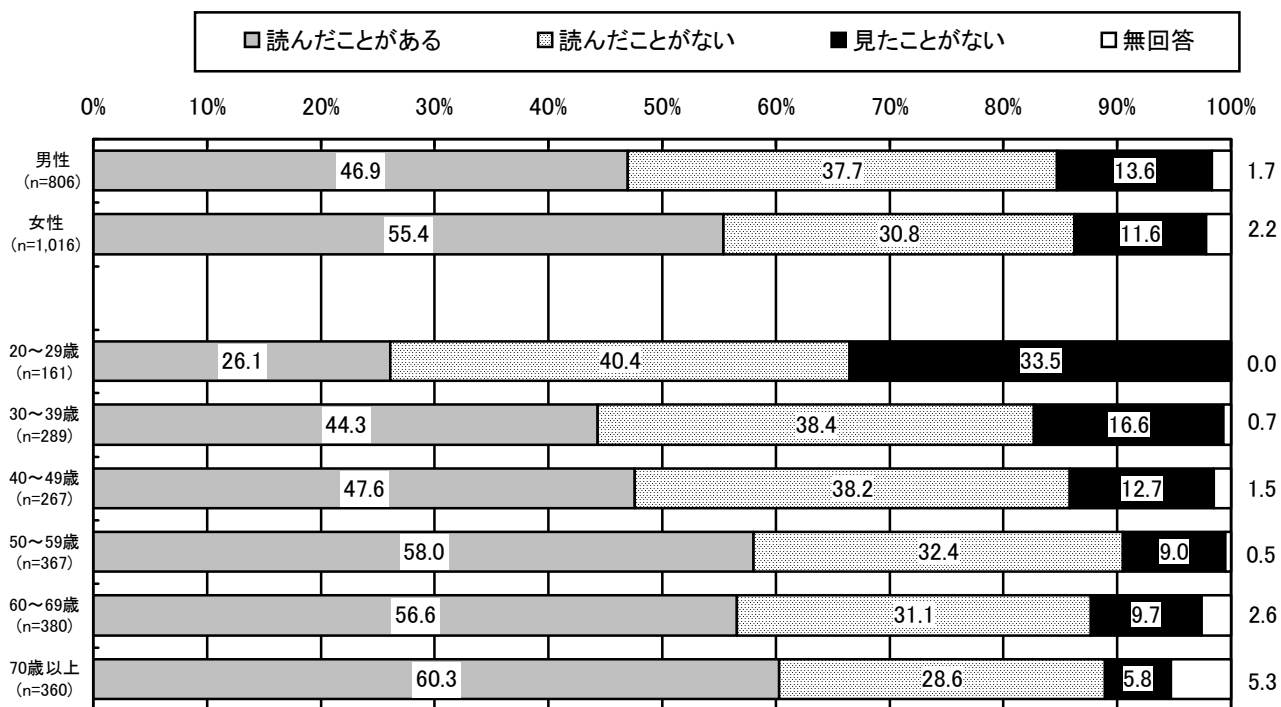
問11 奈良市が発行している広報誌「しみんだより」の人権啓発記事「虹のひろば」を読まれたことはありますか。(○は1つ)

図 5-1(人権啓発記事「虹のひろば」について)【n=1,863】



人権啓発記事「虹のひろば」について、「読んだことがある」が約半数の51.6%と最も多く、「読んだことがない」は34.1%となっている。「見たことがない」は12.3%となっている。(図 5-1)

図 5-1-1 (性・年齢別 人権啓発記事「虹のひろば」について)



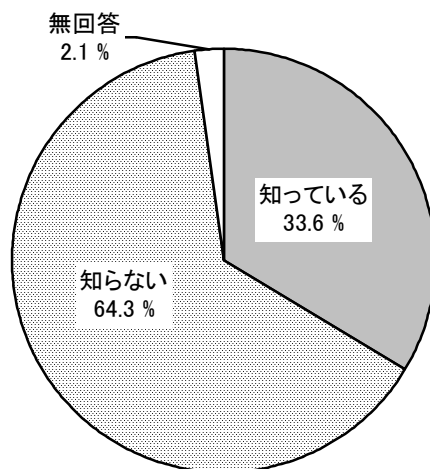
性別にみると、「読んだことがある」では男性（46.9%）より女性（55.4%）の方が高くなっている。認知度（「読んだことがある」と「読んだことがない」を合わせた数値）でも男性（84.6%）より女性（86.2%）の方が高くなっているが、差は小さくなっている。

年齢別にみると、「読んだことがある」では「20～29歳」は26.1%と3割に満たないが、年齢が上がるにつれ割合が高くなっており、「70歳以上」では60.3%と約6割の人が「読んだことがある」と回答している。（図 5-1-1）

## 5-2 毎月11日の「人権を確かめあう日」の認知度

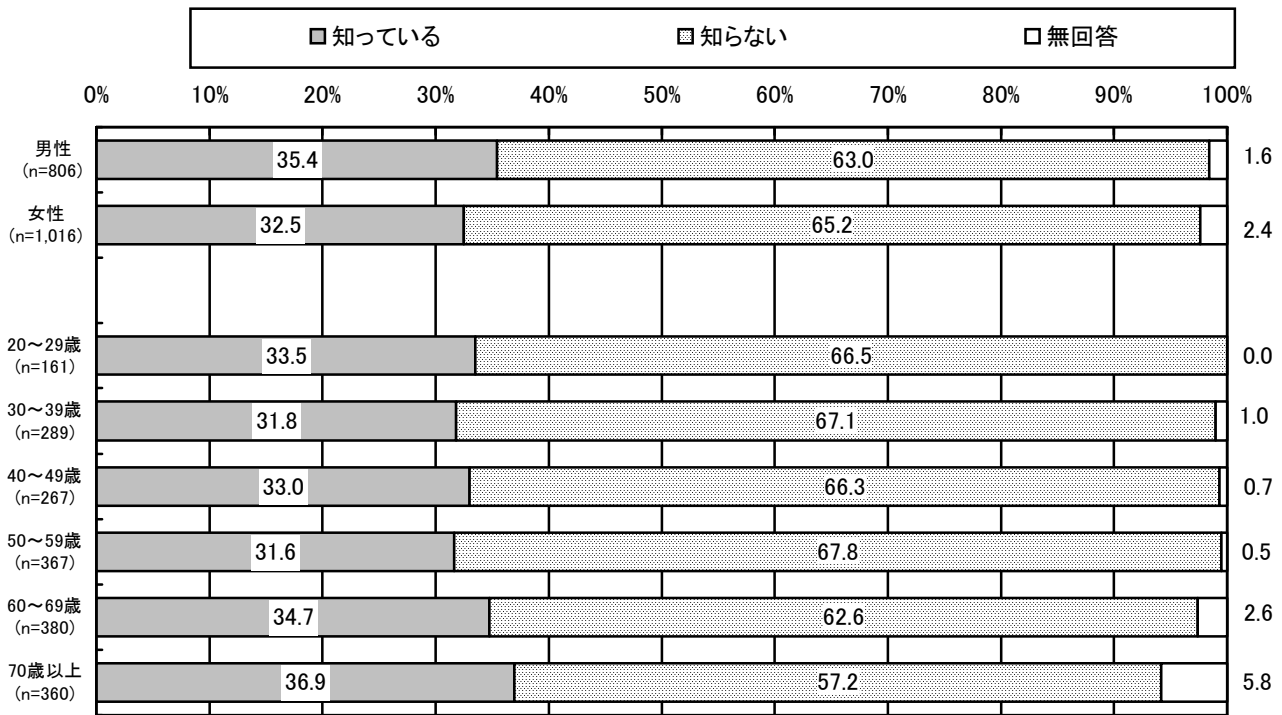
問12 毎月11日が「人権を確かめあう日」であることをご存知ですか。

図 5-2 (毎月11日の「人権を確かめあう日」の認知度)【n=1,863】



毎月11日が「人権を確かめあう日」と知っている人は33.6%と約3分の1となっており、「知らない」が64.3%となっている。（図 5-2）

図 5-2-1 (性・年齢別 毎月11日の「人権を確かめあう日」の認知度)



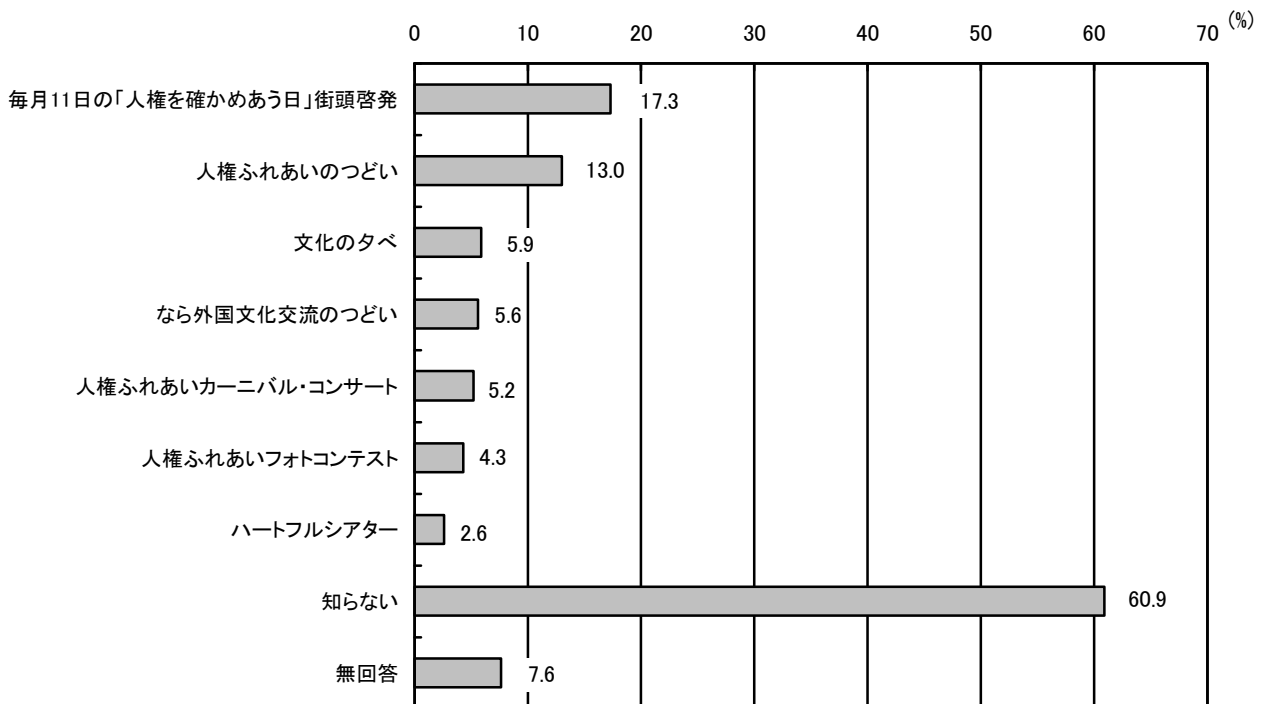
性別にみると、「知っている」と答えた人は、女性（32.5%）と比べて男性（35.4%）の方が2.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「知っている」と答えた年代が最も高いのは70歳以上で36.9%となっており、逆に最も低い年代は50～59歳で31.6%となっている。（図 5-2-1）

### 5-3 奈良市が開催している人権啓発事業の認知度

問13 奈良市が開催している人権啓発事業をご存知ですか。（あてはまるものすべてに○）

図 5-3 (奈良市が開催している人権啓発事業の認知度 複数回答) 【n=1,863】



奈良市が開催している人権啓発事業で、最も認知されている事業は「毎月 11 日の「人権を確かめあう日」街頭啓発」で 17.3% となっており、次いで「人権ふれあいのつどい (13.0%)」「文化のタベ (5.9%)」「なら外国文化交流のつどい (5.6%)」の順となっている。しかし、「知らない」と答えた人が全体の約 6 割 (60.9%) となっており、質問にあげた人権啓発事業の認知度が低くなっている。(図 5-3)

表 5-3-1 (地域別 奈良市が開催している人権啓発事業の認知度 複数回答)【単位：%】

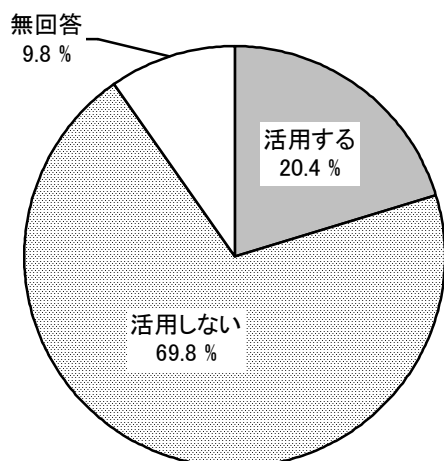
	西部地域 (n=874)	北部地域 (n=138)	中部地域 (n=121)	中央市街地 (n=470)	南部地域 (n=127)	東部地域 (n=33)	月ヶ瀬地域 (n=7)	都祁地域 (n=37)
1位	「人権を確かめあう日」街頭啓発 14.6	「人権を確かめあう日」街頭啓発 13.0	「人権を確かめあう日」街頭啓発 22.3	「人権を確かめあう日」街頭啓発 18.5	「人権を確かめあう日」街頭啓発 25.2	人権ふれあいのつどい 36.4	「人権を確かめあう日」街頭啓発 28.6	「人権を確かめあう日」街頭啓発 24.3
2位	人権ふれあいのつどい 11.0	文化のタベ 10.9	文化のタベ 5.8	人権ふれあいのつどい 15.5	人権ふれあいのつどい 23.6	「人権を確かめあう日」街頭啓発 33.3	人権ふれあいのつどい 28.6	人権ふれあいのつどい 10.8
3位	なら外国文化交流のつどい 6.9	人権ふれあいのつどい 10.1	なら外国文化交流のつどい 5.0	人権ふれあいカーニバル・コンサート 6.6	人権ふれあいカーニバル・コンサート 10.2	人権ふれあいカーニバル・コンサート 15.2	なら外国文化交流のつどい 14.3	人権ふれあいフォトコンテスト 8.1
4位	文化のタベ 5.6	なら外国文化交流のつどい 5.1	人権ふれあいのつどい 4.1	人権ふれあいフォトコンテスト 6.4	文化のタベ 7.1	文化のタベ 9.1	文化のタベ 14.3	なら外国文化交流のつどい 2.7
5位	人権ふれあいカーニバル・コンサート 3.9	ハートフルシアター 5.1	人権ふれあいフォトコンテスト 3.3	文化のタベ 4.9	なら外国文化交流のつどい 6.3	人権ふれあいフォトコンテスト 6.1	人権ふれあいカーニバル・コンサート 14.3	ハートフルシアター 2.7
6位	人権ふれあいフォトコンテスト 3.5	人権ふれあいカーニバル・コンサート 4.3	人権ふれあいカーニバル・コンサート 2.5	なら外国文化交流のつどい 4.3	ハートフルシアター 6.3	ハートフルシアター 6.1	人権ふれあいフォトコンテスト 0.0	文化のタベ 0.0
7位	ハートフルシアター 1.3	人権ふれあいフォトコンテスト 2.2	ハートフルシアター 0.8	ハートフルシアター 3.4	人権ふれあいフォトコンテスト 3.9	なら外国文化交流のつどい 0.0	ハートフルシアター 0.0	人権ふれあいカーニバル・コンサート 0.0
	知らない 65.9	知らない 63.8	知らない 57.9	知らない 57.4	知らない 47.2	知らない 48.5	知らない 42.9	知らない 54.1

地域別にみると、ほとんどの地域で「毎月 11 日の「人権を確かめあう日」街頭啓発」が最も多くなっているが、東部地域では「人権ふれあいのつどい」が 36.4% で最も高くなっている。質問にあげた人権啓発事業を「知らない」と答えた割合が 5 割を上回っている地域は、西部地域 (65.9%)、北部地域 (63.8%)、中部地域 (57.9%)、中央市街地 (57.4%)、都祁地域 (54.1%) で認知度は低くなっている。(表 5-3-1)

#### 5-4 人権問題に理解を深めるための取り組みを支援する補助制度について

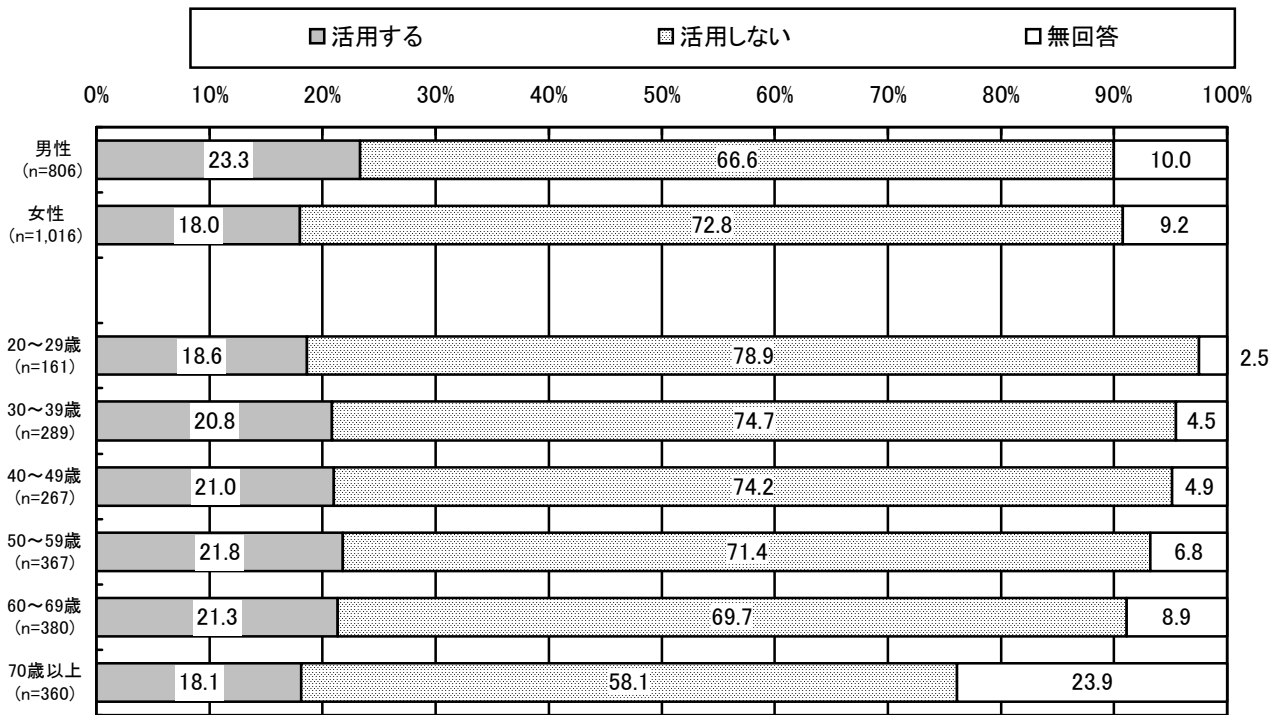
問14 人権問題に理解を深めるための取り組み(イベント等)を支援する補助制度があれば活用されますか。

図 5-4 (人権問題に理解を深めるための取り組みを支援する補助制度について)【n=1,863】



人権問題に理解を深めるための取り組み (イベント等) を支援する補助制度を「活用する」と答えた人は 20.4% と約 2 割しかおらず、逆に「活用しない」と答えた人は 69.8% となっている。(図 5-4)

図 5-4-1 (性・年齢別 人権問題に理解を深めるための取り組みを支援する補助制度について)



性別にみると、「活用する」と答えた人は女性（18.0%）と比べて男性（23.3%）の方が 5.3 ポイント多くなっている。

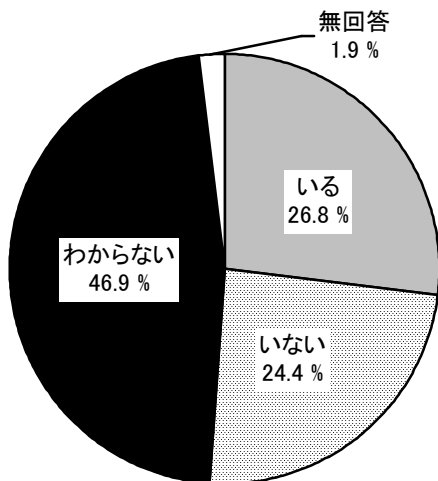
年齢別にみると、「活用する」割合が最も高い年代は 50～59 歳で 21.8%、最も低い年代は 70 歳以上で 18.1%と年代間で大きな差は見られない。（図 5-4-1）

## 6. 災害時要援護者の把握について

### 6-1 災害時要援護者の把握状況

問15 災害時要援護者があなたの近所におられますか。（○は1つ）

図 6-1 (災害時要援護者の把握状況) 【n=1,863】



近所での災害時要援護者の把握状況は、「わからない」が 46.9%と約半数となっており、「いる」と「いない」を合わせた、把握している（51.2%）とほぼ同数となっている。また、近所に災害時要援護者が「いる」人は 26.8%となっている。（図 6-1）